

春日権現験記 20軸 WA31-13

01-001



WA 31
13
(1)



国立国会図書館



WA 31
13
(1)

資料 6





承平七年二月廿五日戌時より神殿鳴動して
 風吹子時小橋氏女御寶前より殿をふり神殿
 守なりし女禰を紙のあひむし無たのくす
 見たりして心又今月廿三日より御讀經小興福寺僧
 勝圓とめす即御託宣云我をやく菩薩小成よ
 りしと紙に家いすし菩薩の号を得しめさる也と
 述べらるるこ小天山修行の僧千良申はるし菩薩此御名
 をいり申侍覽と申せ共慈悲方行菩薩と名のを給太政
 大臣及左右大臣りるの公卿もわることる可也たとさま
 述べせしはともあり公事





大長及左右大臣りろくの公卿もわつことる可也村とまき
 た得せてはともあり公季



大和國平羣郡夜摩郷小一乃靈地あり
 竹林殿と号す春日大明神御敷向此所也
 ひり右馬允藤原光弘廣瀬郡吉南殿と云
 所不其免々り大和河の北乃邊城みれ魯家
 ひる所あり貴女こ乃所不たんて予孫致言す
 所なり心れ給はる多人いつれの所より來給と光弘
 申され也

我屋戸ハ名ヤ大乃ニカ見一者モ此也
 みまされ山乃うきく急のみや
 かくに得せられて見給えす



我屋戸の女やあはれなる兒く若き世
 みまれば山乃うきく急のみや
 かくに得せられて見給えす



光弘夢想小ありて天曆二季二月廿五日夕く免て
 本木をくへて村上天皇小奏聞して同年六月十六
 日より此ところ小あむ其後正曆三年乃と河藤原
 吉兼々夢小家此西南乃竹林のうへ小貴女飛来





木をさるへて村上天皇小奏聞して同年六月十六
 日より此ところ小奏む其後正暦三年乃こ河藤原
 吉兼、夢小家此西南乃竹林のうへ小貴女飛来
 て乃給やう我ハ汝ハ氏春日大明神也家ハ竹
 志けうて竹林園小似ハおゆハ女ハ乃所小来有
 志志竹志守く所をたうハ汝ハ子孫敬忌昌也ハ
 夜御と見たりヤそ社をこて神をあらたしそ月つて
 けく神竹をきかへうらふかり起請をさすなりハ
 後小循竹いもつにして梁園小こせたりんこ
 かし









寛治六年七月太上天皇

白河院

金峯山了

御幸ありやまに御山ふて俄に例なき御

...



寛治六年七月太上天皇

白河院

金峯山了

御幸ありやまに御山ふて俄に例なき御
 幸あり人々色をうらやまふ程小龍顔送
 鱗乃幸ありては海とらる、やう春日山
 邊小侍たきりまわきた乃臨幸してこぢ
 あり先御路のこり小なと、幽閑此見免
 をもふを給給へ御仰らして大納言師忠
 中宮大夫推實た候えれけり御覧し
 してあられゆく所魚給つる源氏と云。
 御復せ事あり先冬とのく恐をふく御
 前を立ちさるに今果して御氣色さきとせ給
 たり事小く恥思食ふ路り還御ありまは
 たりありと云ふはさる御祈願のむねありて
 とも春日社へ神馬致して泊つる又右大弁延房郷
 小仰て御願書清くせらる大部大乗經をうた
 當社へ御幸ありまはり也其後御心神本小く
 賜り給て此に御願をうたきくはる









